

おもな学校感染症

| 第2種 | 病名 | 主な症状 | 潜伏期間 | 感染経路 | 出席停止期間 |
|-----|-----------------|---------------------------|--------|----------|--------------------------|
| | インフルエンザ | 高熱、頭痛、全身倦怠、関節痛、咽頭痛、咳、鼻水など | 1～2日 | 飛沫 | 発症後5日かつ解熱後3日を経過するまで |
| | 百日咳 | 特有の激しい咳など | 1～2週間 | 飛沫 | 特有な咳が消え、伝染の恐れがないと認められるまで |
| | 麻疹（はしか） | 発熱後4日目より皮膚に発疹 | 10～12日 | 飛沫 | 解熱後3日を経過するまで |
| | 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） | 発熱、耳下腺が大きくはれて痛む、食欲不振など | 2～3週間 | 飛沫 | 耳下腺のはれがひき、医師の判断 |
| | 風疹 | 発熱、発疹、耳の後ろや首のリンパ腺のはれなど | 2～3週間 | 飛沫 | 発疹が消えるまで |
| | 水痘（水ぼうそう） | 微熱、全身に発疹など | 2～3週間 | 飛沫 接触 | 発疹が全てかさぶたになるまで |
| | 咽頭結膜熱（プール熱） | 高熱、咽頭痛、咳、結膜の充血、首のリンパ節の腫脹 | 5～7日 | 飛沫 接触 | 症状が消えた後、2日を経過するまで |
| | 結核 | 咳 | — | 飛沫 経口 | 伝染の恐れがなくなるまで |
| | 髄膜炎菌性髄膜炎 | 高熱、頭痛、嘔吐、頸部硬直 | 2～5日 | 飛沫 | 伝染の恐れがなくなるまで |

| 第3種 | 病名 | 主な症状 | 潜伏期間 | 感染経路 | 出席停止期間 |
|--------|---------------------|------------------------|-------|----------------------|--------------------------------------|
| | 流行性角結膜炎 | 結膜の充血、目やに、涙 | 5～7日 | 接触 | 症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで |
| | 急性出血性結膜炎 | きつい充血、目の痛み | 1～2日 | 接触 | 症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで |
| | 腸管出血性大腸菌感染症（O-157等） | 下痢、嘔吐、腹痛 | 4～8日 | 経口 | 症状が改善し、医師が伝染のおそれがないと認めるまで |
| | 溶連菌感染症 | 咽頭痛、高熱、扁桃の発赤や腫れ、いちご舌 | 2～7日 | 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | 手足口病 | 手のひら、足の裏、口、舌に白い水疱の発疹など | 3～6日 | 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | 伝染性紅斑（リンゴ病） | 頬がリンゴのように丸く、赤くなる、発熱 | 1～2週間 | 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | ヘルパンギーナ | 高熱、のどの奥に小さな水疱 | 2～7日 | 経口 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | RSウイルス感染症 | 発熱、咳、鼻水、喘鳴、呼吸困難 | 2～10日 | 経口 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | 感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症） | 発熱、下痢、嘔吐、白便（ロタ） | 1～2日 | 経口 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | マイコプラズマ肺炎 | 発熱、激しい咳、咽頭痛 | 2～3週間 | 飛沫 | 症状が改善すれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | 伝染性膿痂疹（とびひ） | | | 接触 | 湿潤部位をガーゼ等で覆っていれば出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| | 伝染性軟属腫（水いぼ） | | | 接触 | 出席停止の必要はないが、医師の判断による |
| アタマジラミ | | | 飛沫 | 出席停止の必要はないが、医師の判断による | |